

9/28 工事への感謝と永遠の安全安心を祈って 大規模崩壊斜面对策現場で植樹イベント



安全安心な道路の工事に感謝

10月3日の斜面对策事業完成・国道57号現道部開通式に先立ち、斜面对策現場において、南阿蘇西小学校6年生による植樹がおこなわれました。

10本の河津桜が児童の手によって植えられ、南阿蘇西小学校の児童全員で作られた工事に対する感謝と地域の安全を祈った看板が設置され、児童達からは「斜面をキレイにしてもらったので、車や電車も安心して通れるようになると思う」など、感謝の言葉を聞くことができました。

10/1 村内の小学生全員の願いを込めてアマビエを作りました! 谷人たちの美術館子どもイベントのお知らせ



かなばあちゃんと2ショット

10月1日に谷人たちの美術館実行委員会は村内の作家と子ども達と一緒に作ったアマビエをお披露目しました。

このアマビエは10月1日から1月上旬まで「道の駅あそ望の郷くぎの」の屋外デッキで展示をしており、鱗は小学生達の願いが書かれた木札でできています。

アマビエと木札は来年の「どんどや」でお焚き上げします。みんなの願いが、天に届きますように!

9/14 開通までもう少し 新しい「阿蘇大橋」がつながりました



お手伝いいただいた小学生達と記念撮影

9月14日に新阿蘇大橋(仮称)の中央閉合式典がありました。村内の小学生が手伝うなか、最後のコンクリート打設がおこなわれたことで、2017年8月に着工した新阿蘇大橋(仮称)は約3年の期間を経てようやく繋がりました。

2021年3月には念願の新阿蘇大橋(仮称)の開通が予定されており、南阿蘇村の復興のシンボル完成へのカウントダウンは始まっています。

10/1 立野ダム本体工事が本格化 立野ダム初打設式が開催されました



これから工事がさらに本格化していきます

10月1日、立野ダム建設工事において、ダム基礎岩盤への初めてのコンクリート打設に併せて「立野ダム初打設式」が開催されました。

これは、ダムを築造するための「ダム本体コンクリート打設」という工程に無事に入ることが出来たことからおこなわれたもので、今後は立野ダム本体工事が本格化していきます。

式典を通して工事に携わる関係機関や作業員の皆さまの工事に対する熱意と真剣さが伝わりました。



無事「かえる」ように

「見守るかえる君」がいなくなりました



無事「かえる」ことを願い設置された看板

第八駐在区の村道水分線沿いで、行き交う地域の人たちが無事に我が家へ「かえる」ことを願い見守り続けてきた「見守るかえる君」が突然消えていなくなりました。

この「見守るかえる君」は地元住民で組織されている「清く明るい村づくり実行委員会」により置かれたもので、「見守るかえる君」が無事に「かえる」ことを願って、すべての地域の住民の皆さまにより看板が設置されました。

10/1 長年の功績を称えて

桐原敏行さん(両併一)が旭日単光章を受章



写真中央 桐原敏行さん

10月1日、南阿蘇村役場村長室にて桐原敏行さん(両併一)に旭日単光章を授与されました。

桐原さんは、旧白水村にて平成3年の当選以来3期にわたり白水村議会議員を務められ、白水村議会経済建設常任委員会委員長などを歴任されました。

今回の授与は、村の発展と民生の安定に貢献し地方自治の発展向上に大きく寄与されたこれまでの功績を称えられてのものとなります。

9/30 快適な学校生活のためのお手伝い

南阿蘇西小学校でグラウンド排水工事のボランティア



工事の工程なども分かりやすく学ぶことができました

9月30日、熊本県建設業協会阿蘇支部と阿蘇地区建設業青年部の共催によるボランティアで、南阿蘇西小学校グラウンドの排水工事がおこなわれました。

このボランティア活動は阿蘇郡市の小中学校を対象として、学校環境をより良くするために毎年実施されています。

5、6年生の児童達はバックホウの乗車体験をするなど、建設業の仕事を身近に感じることでできる良い経験となりました。

9/24 正教寺が村の指定文化財となりました

250年の歴史を経て



震災前の正教寺(中松1214番地)

正教寺は、残存する江戸時代の文書により、震災で被災するまでの約250年間もの間維持されてきたことが分かりました。また、18世紀中世の南郷地域の真宗寺院建築の様式を残している文化的な建築物でもあります。

本堂と楼門は江戸時代の記録や、棟上げや再建の記録も残っていることから、18世紀の南郷地域の宗教建築がどのようになっているかを知ることができる極めて貴重な文化財であるため、9月24日に村の指定文化財に認定されました。

10/13 インターネットを利用した遠隔授業を実施 南阿蘇西小3年生のオオルリシジミ生態系学習



児童達は興味津々の様子で授業を聞いていました

コロナ対策として教育委員会では、小中学生に1人1台のタブレット端末整備と小中学校のWi-Fi環境整備を現在進めているところです。

今回、その環境を活用し、10月13日に南阿蘇西小学校3年生が、オオルリシジミの生態系の学習の中で、環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所のご協力のもと東海大学熊本キャンパスの学生による遠隔授業を受けました。

インターネットや動画などを活用したユニークな授業で児童も興味を持って学習に取り組むことができました。

10/13 オオルリシジミ観察学習を通じて環境教育の場を提供 永年の功績に対し感謝状を贈呈



左2番目に田上健祐一関二区長、3番目4番目に岡さんご夫婦

村蝶であり、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅰ類に指定されているオオルリシジミの観察学習を通じて環境教育の場を提供された、岡俊樹さん、くに子さんご夫婦(白川)、一関二区下関牧野組合へ10月13日、松野教育長が感謝状を贈呈しました。

この学習は、ふるさと学習の一環として15年以上続けられており、村内の児童にオオルリシジミの生態や牧野の重要などを伝えていきます。今後も学習が継続的にこなわれていくことを期待します。

熊本大学の鳥井先生のお話を聞きながら、阿蘇のダイナミックな自然を感じることが出来ますので、ぜひご参加ください。

なお、次回は11月7日(土)にフィールドワークとして立野周辺の震災遺構を見学する予定です。熊本大学の鳥井先生のお話を聞きながら、阿蘇のダイナミックな自然を感じることが出来ますので、ぜひご参加ください。

熊本大学との連携協定に基づき阿蘇サイエンスカフェが開講されています。これまで3回実施されており、阿蘇の火山から歴史・文化の話まで幅の広い講座がおこなわれています。

今年度は残り5回の講座を予定しています。参加者枠に若干余裕がありますので、ご希望される人は復興推進課までお問合せください。

■阿蘇サイエンスカフェについて

南阿蘇村復興むらづくりだより
復興推進課
TEL(67) 11113



今後、ITを活用した地域活性化に取り組みとともに、令和4年度開校予定のIT専門学校と連携していくことも期待されます。



↑調印式時風景

10月5日(月)、南阿蘇村と熊本県内外のIT関連企業5社から成る「南阿蘇ITバレー協議会」とのITの推進に関する包括連携協定の調印式が開催されました。

本協定では、①村内遊休施設などを活用した新たな生活様式における働き方の実践、②ITを活用した農業・観光サービス業などの人材育成と就業支援、③協議会員である企業と地元学生・住民との交流、④地方創生における阿蘇をフィールドとした様々な地域課題の解決、⑤ベンチャー企業やスタートアップ企業の創出およびその支援などが盛り込まれています。

■IT推進に関する連携協定を締結